

# ごろうもん いしばし 御楼門と石橋

Goromon Gate and the Stone Bridge

누문과 석교

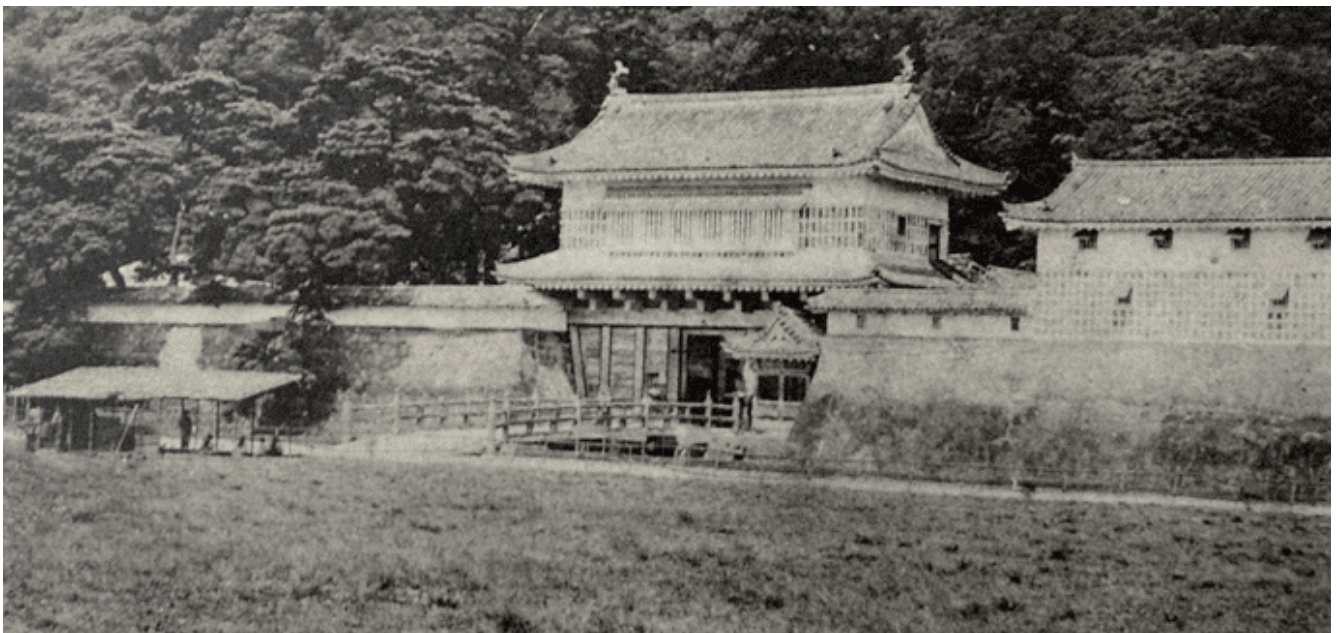
楼門和石橋

樓門和石橋

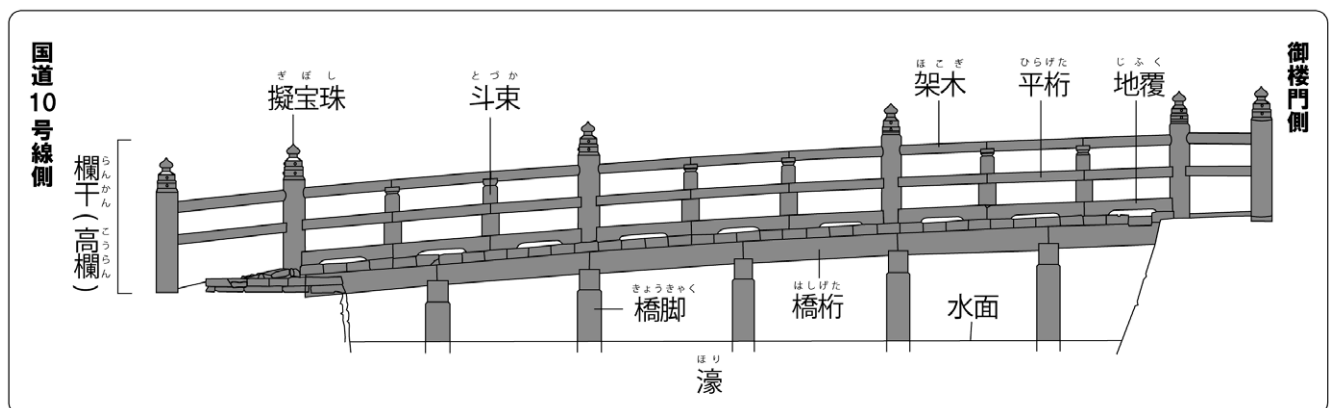
かごしま つるまる じょう  
鹿児島（鶴丸）城の表玄関で、城のシンボルとも言えるごろうもん  
御楼門は、残された古写真の解析や現存する  
そせき こんせき にじゅうにかいづくり もくぞうほんがわらぶ  
礎石に残る痕跡等から、二重二階造・木造本瓦葺きで、屋根に鯨を上げ、この鯨までの高さが約20メ  
ートル（推定）もある国内最大級の城門です。

周囲には、当時の礎石（大きいもので約1.2メートル×約1メートル）が今も残されており、その表面には柱に巻き付けられた金物の錆色が観察されます。これにより支柱の太さは約90センチ×約70センチであったことが分かりました。

その前に架かる橋は当初は板橋でしたが、文化7(1810)年に薩摩藩から幕府へ願い出て、石橋に架け替えられたことが記録に残っています。欄干の擬宝珠は鹿児島城下にあった新橋・西田橋と共に唐金（せいどう すず どう 青銅、錫と銅の合金）で製造され、「慶長十七年壬子六月吉日」と刻印されていたと伝えられています。



▲ 明治5(1872)年撮影の御楼門と石橋



▲ 石橋の構造模式図